研究課題　和歌山平野を中心とした地域所在中世史料の調査・研究

研究経費　三四万六〇八一円（前年度よりの繰越分）

研究組織

　研究代表者　　　坂本亮太（和歌山県立博物館）

　所内共同研究者　村井祐樹・高橋敏子

　所外共同研究者　小橋勇介（和歌山市立博物館）・砂川佳子（和歌山県立文書館）

研究の概要

（１）課題の概要

　和歌山県における中世史料は、『和歌山県史』の刊行により、その全貌がほぼ明らかになっている。また、本研究で対象とする和歌山平野域（主に和歌山市）については、『県史』刊行後、『和歌山市史』が刊行され、『県史』未収録の史料群も『市史』により把握されている。ただし、当時においても種々の事情により十全な調査・発掘が行われたものではなく、存在は把握していながらも点数が少ないという理由で採録しなかったものや、原本調査に至らず、史料編纂所架蔵影写本に拠らざるを得なかったものも多数あった。さらに、刊行から既に四〇年以上が経過し、その間に新たに発見された史料も少なくない。  
以上の様な状況の中で、本課題で対象とする和歌山平野（主に和歌山市）域では、林家文書（和歌山市立博物館所蔵文書と林峯之進家文書）・玉置作太夫家旧蔵文書など、『県史』『市史』からも漏れた少なからぬ新出文書が確認されており、さらには市立博物館の精力的な研究・展示活動により、和歌山市域外の関係文書も多数発掘されている。そこで、明治・大正期に作成された影写本や、昭和以降に撮影された写真帳等、豊富な複本類を持つ史料編纂所と共同することで、当該地域所在史料の調査・研究を行いたい。

（２）研究の成果

　以下、調査・撮影を行った史料を挙げる。  
　玉井文書（市博所蔵）／淡嶋神社文書（市博借用中）／善勝寺文書（市博寄託）／総持寺文書（同上）／西正寺所蔵文書（和歌山市）／念誓寺文書（同上）／室谷文書（同上）／且来八幡神社（海南市）／専徳寺所蔵文書（泉南市）／十津川村宝蔵文書（十津川村）／風屋文書（十津川村教育委員会寄託）／下葛川文書（同上）  
  
　以上の内、玉井文書は新出、他は『和歌山県史』『和歌山市史』に収められているものの、所在が確認できてなかったものもあり、今回その確認ができた。また十津川村所在文書は紀伊守護畠山氏関係の文書を多く含む。いずれも今後の和歌山中世史研究における活用が望まれる。